

赴任のご挨拶

消化器外科 久保田啓介



JCHO 東京山手メディカルセンターにおかかりの皆様、はじめまして、久保田啓介と申します。平成30年10月より当院にて勤務致しております。病院の診療体制の強化を目的に、食道胃外科診療部が新設される計画に伴って赴任してまいりました。本日はご挨拶と自己紹介をさせていただきます。

私、平成3年に東京大学を卒業し、東大病院胃食道・乳腺内分泌外科に入局しました。初期研修終了後、国立がんセンター中央病院の外科レジデントに応募し、希望で食道外科を専攻しました。大学に戻って病棟長や医局長を務めた後、平成17年から国際医療福祉大学三田病院、平成25年から聖路加国際病院に勤務し、引き続き食道手術を中心として主に上部消化管の外科を担当しました。食道学会の評議員を務めるとともに、三田病院では全国で200人ほどしかない食道外科専門医資格を取得しました。聖路加病院では手術の質を高め、現在の鏡視下食道手術が完成しました。開胸を加えることなく胸腔鏡のみで食道を切除するため、患者さんは胃切除術後と変わらないようにお元気で、2週間で退院されます。吻合も改善を重ねて縫合不全も起こらなくなりました。これから東京山手メディカルセンター内に放射線治療棟が新設されますので、食道癌の集学的治療がより円滑に行えます。

上部消化管の胃外科手術も同時に担当します。標準的な手術に加え、少しでも胃を

残して機能を温存する手術（幽門保存胃切除、噴門側胃切除）を多く行っています。いずれの術式でも、身体に与える負担が少なく回復の早い腹腔鏡手術を行っています。

ソケイヘルニア（脱腸）、虫垂炎、胆嚢炎などの一般外科手術も日常的に行ってきました。特にヘルニア手術は数多く行い、日本ヘルニア学会の評議員を務めております。

食道癌は手術の適応であっても全身状態などにより手術できないケースもあります。胃癌はピロリ菌除菌治療の普及により減ってきています。しかしながら現在でも多くの食道癌、胃癌の治療の中心は手術です。胸腔鏡・腹腔鏡を用いた低侵襲手術や抗がん剤や分子標的治療剤などの化学療法など、日々進化を続ける外科診療に対応していくことも必要です。日々反省と改善を繰り返して、手術では合併症がおきないことを極力目指しています。日常診療では、患者さんにご家族に丁寧な説明と親身な診療を行うことを心がけています。医療に求められるものも複雑になってきましたが、もっともよい選択肢は何か、という事を考えていきます。

新宿地区の医療にお役立ちできますと幸いです。皆様と一緒に頑張る覚悟でおりますので、今後よろしくごお願い申し上げます。